



日本キリスト教団
三軒茶屋教会
<http://sanchurch.jp/>

三軒茶屋 教会通り

〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL/FAX: 03-3418-4933
発行：三軒茶屋教会 広報部

第59号 2019年5月発行

「今までとは違っている」「以前はこうだったはず」人は、どの時代でも、不意の変化を喜んで直ぐには受け入れようとはしない。いつ行ってもくつろげる場所。互いに気心の知れた同じ顔ぶれ。変わらない雰囲気。馴染みの調度品。そこでのなつかしい思い出の語り。長く通い慣れた「いつもの場所」には、落ち着いた気持ちに立ち戻れる安心感と安定感がある。できれば、それが、ずっとこのままであってほしい。誰もが抱くであろう願いだ。しかし、時の流れ、時代の変化はそうした願いをずっと守ってくれるとは限らない。今から50年前、どれほどの人が今日の少子高齢化社会に現れ出ている現実を、前もって真剣に受け止めていたであろうか。生活スタイルや価値観がこれほど多様になると、誰かの確に先読みして、あらかじめ準備を整えていただろうか。世の人々は一段と忙しくなる一方で、休日としての日曜日の過ごし方も一様ではない。子どもたちや若者たちの生活スタイルは、「やりたいこと」を中心に進んでいる。高齢者は、外出するだけでも入念な準備を必要とする。

変化を受け入れる

不変の約束を信じ続けるために

牧師 伊藤英志

教会について言えば、初めて礼拝へ出席する人が自然発生的に増え続ける時代は、数10年以上前に既に過ぎ去っている。真剣になって主日礼拝を守り、伝道に励んでいる教会であっても、教会の将来についての展望は、決して無条件に明るいものとなっていない。残念ながら現状維持すら容易でない教会が増えている。エレベーターのない教会には通いにくくなる。トイレの数が足りない教会もある。玄関でスリッパに履き替える教会は、高齢者にとっては難儀となっている。時代は確実に移り変わっていく。時の流れに伴って生じる様々な現実を、全く戸惑うことなく受け止めることは誰にもできない。しかし、聖霊降臨の出来事以降、教会が守ろうとしてきたものは、現状維持や麗しい思い出ではない。教会は、地上の時代がいくら変わっても、決して変わらない約束を信じている。この信仰に立ち続けようとしてきた。



「神は約束されたものを受け継ぐ人々に、御自分の計画が変らないものであることを、いっそうはっきりと示した」(ヘブライ6・17)のだ。教会に結び合わされている者たちは、聖なる不変の事柄によって力強く励まされ(ヘブライ6・18)、大きく移り変わる時代にあっても、変わることをない信仰を貫くよう召し出された者たちなのだ。このたび、三軒茶屋教会は、浅からぬ歴史的繋がりのある駒澤教会との合同に至り、駒澤教会の教師と教会員を迎え入れた。教会にとっては、会堂建築に次ぐ大きな変化となる。しかし、これは主なる神の御心の現れである。これを受け入れるのは私たちに与えられた使命なのだ。と同時に、私たちがとって何が最も重要であるのかを見定めるために備えられた時ともなっている。決して変わることはない聖なる救いの約束に信頼し切って歩み続けるために、変えるべきところは大胆に変えていく。福音伝道の使命を果たすためであれば、変えられるところは勇気をもって変えていく。この変化を、信仰を持って受け入れられる私たちでありたい。